**三団体合同研修会アンケート**　　　　　　　　　　　　　　４８／７４

　　　　　　回収率：６４．９％

●**職種**　 医師　０名　　看護師　１名

ケアマネ　３３名　　介護職　２名

　　　　相談職員　４名　　包括職員　５名

　　行政職員　０名　　薬剤師　１名

　　　　法人関係　１名　　Pham.　１名

　　　　その他　１名　　ＮＡ　２名

●**今回の研修で、あなたはどのようなことを学べましたか？**

　【自由記載】

　　・ＣＭ１人と２人のメリット、デメリット。

　　・職種を問わず、利用者に対しての横のつながり、連携を図るとともに専門職として何ができるかを改めて考えて行く必要性を感じました。

　　・高齢者夫婦を世帯で支えるということで、夫婦を１人のＣＭで支援する事が多い中別々のＣＭで支援する事のメリットやデメリットについてケースを通して良く理解することができました。

　　・メリットとデメリットは裏表でもあると思いました。ＣＭの負担や不安の軽減。本人、家族の意向などを考えてケースによって対応できればと思う。複数の視点でアセスメントするのはよいことと思う。

　　・ＳＷ、ケアマネ、包括のケアマネの発表がとてもわかり易く、それぞれの役割の違いと情報を共有しながら一緒に連携しながら支援していく重要性を再認識しました。

　　・ケアマネージャーのケース、目線、一連の流れで「薬剤師」という言葉が一度も出てこない知名度の低さ、現実。

　　・世帯高齢者を支える為に、情報を共有できると良い。⇒連絡ノートなどを使うのはどうか？

　　・ケアマネが２名の場合⇒相方の担当者会議に参加すると良い。

　　・世帯で支援するという捉え。担当ＣＭのメリット・デメリットという点を参加者がどう捉えられるのか意見が聞けて良かった。

　　・夫婦とかで複数のCMが担当するメリット・デメリットについて考えさせられた。これまで、家庭には一人のCMの方が、双方に良いとばかり考えていた。

　　・居宅ケアマネジャーの意見。

　　・それぞれの立ち位置で、違う視点で感じているメリット・デメリットを意見交換でき、共感できる部分と、そういう考えもあるのかと気づけた部分もありました。

　　・医療連係について、色々な意見が聞けて良かった。

　　・一世帯に2人のケアマネを立てるという発想がなかったが、ケースによっては多くの視点で支援ができるという利点があるのだとわかった。

　　・ケアマネジャーさんの思い。

　　・夫婦利益関係が異なる、虐待などは２人体制がよいと思っていたが、パワーバランス関係なくても複数担

－１－

当でメリットがあることがわかった。主副担当などアセスメントを複数体制で行うことが有効と思った。

　　・高齢者夫婦世帯への支援の仕方。

　　・ご夫婦世帯であっても、1人のケアマネが担当するだけでなく、2人のケアマネがかかわることで、メリットがあることがわかった。

　　・ケアマネの支援について、いろんな視点、役割分担していくことが1人の担当、2人の担当それぞれメリット、デメリットが整理することができた。

　　・夫婦は1人CMと考えて支援をしていたので、新しい視点が学べた。

　　・世帯を支えるという視点をあらためて意識しました。

　　・夫婦を2人のCMで担当する点でのメリットやデメリットなど学べました。

　　・同世帯で2名ケアマネが対応することにより利用者様、家族様にとって良い支援ができるという参考事例と思い、勉強になりました。

　　・夫婦での支援は実際にありますが、別々な担当はしたことがなかった。別々な担当でのメリット・デメリット他の視点や話が学べました。

　　・「夫婦は１人で見るべきもの」と勝手に思い込んでいた面があったため、今後はケースバイケースで複数ケアマネで対応することもできると思いました。

　　・夫婦は１人で担当するのが当たり前と思っていたので勉強になりました。困難ケースは複数の目で見ることが大事なのかもと思いました。

　　・介護支援に置いて、ケアマネジャーが1人で抱え込むのではなくて、ケアマネジャーは窓口業務として、チームで支えることが必要だと学んだ。

　　・1人で夫婦のケアマネジメントを行っている場合の課題、アセスメント不足、視点の均一化などデメリットを確認できた。

　　・連携、コミュニケーションについて、考える機会となった。

　　・グループ内での具体的な意見が聞けたので良かった。

　　・夫婦を2名CMで担当したことがなかったので、メリット、デメリットを学べた。

　　・夫婦、親子、一世帯を1人のCMがいいのか？2人がいいのか？意見交換により、2人のCMが関わっていくのも、良いと感じました。利用者側にもよるでしょうが、ありだと思いました。

　　・連携の大切さ、メリットだけではなく、デメリットも合わせて考える事が出来た学びでした。

　　・自分も夫婦世帯をひとりで担当しているので勉強になった。

　　・個別の視点だけではなく、他職種との連携でも重要と感じた。

・事業所間での連携、相談体制など。

　　・夫婦、それぞれにケアマネがいる事のメリットについて学んだ。

　　・医療連携から夫婦の２人のCM、１人CMか役割などについて。

　　・夫婦別々のCMが担当する事のメリット、デメリットがあると思うが、参考になった。集合して顔を合わせ、情報共有する事の大切さを、学びました。一人で抱え込まず、相談していくことが大切と感じました。

　　・同じ世帯は1人のケアマネが担当した方が良いと思っていましたが、複雑な世帯になると２人のケアマネが担当して違う視点で支援するのもケアマネの精神的な負担が軽減されたり、良い支援ができることもあることを学べました。

　　・ケアマネとして、メリット、デメリット、色々な目から見える意見を聴収できました。

　　・1人で、２人（夫婦）を持ったことしかなく、1人で、持ったときの場合、２人で、持ったときの場合のメリット、デメリットを、他者から聞くことができ、今後の支援に、役立てたい。

　　・他職種連携により様々な視点を持つことができる。

－２－

　　・２人ケアマネが担当すると、一人の利用者に係る時間がとれるのも、利用者にとっていいことなんだと、良いイメージがわきました。

　　・それぞれのCMさんから経験談や情報交換もできた。

　　・他の事業所さんでやっている事、考え方など知る事ができた。

　　・発表にあたりケースを振り返っての資料作成や発表者、主催者間での事前の準備など大変良い経験となりました。

　　・顔がみえる連携から人となりがわかる連携の重要性を学びました。

　　・世帯（夫婦、親子）への介入について、1人ケアマネと複数ケアマネの、メリット・デメリット、具体的に参考になりました。

　　・個人ではなく世帯を支えていくことについて改めて色々な視点のあり方を考えました。

　　・夫婦を担当するCM、１人で担当、２人で担当するメリット、デメリットについて。

**●今回の研修内容は、あなたの今後の業務にどのように活かせそうですか？**

【自由記載】

　　・考えたことがなかったので、メリット、デメリットを活かしながら業務できる

　　・利用者、ケアマネジャー、現場（ヘルパー、看護師）のそれぞれの業務、意見を聞くことができ今後の業務に活かしていきます。

　　・他職種連携の大切さを学び重要と改めて学びましたので今後利用者支援に生かしていきたいです。

　　・普段は聞けない話を聞くことができました。

　　・カンファレンス、地域ケア会議等の重要性。参加を求められれば積極的に参加したい。

　　・ＨＰカンファレンスにどのように参加していけるかが問題点としてあげられました。（今後の）

　　・（調整ばかりでなく、介入する場面もあると思うので）２人のケアマネとすり合わせする必要がある視点を業務へ活かしたい。

　　・アセスメントに本人のみならず、世帯単位という視点も持ち合わせて行いたい。

　　・相手の立場、ケース内容によって、どのような関わりをしていくのかを今後改めて、考えながら、行っていきたい。

　　・連携がグループワークした人達ととりやすくなったです。

　　・自分が良いと思う支援と、客観的に見て望ましい支援を照らし合わせて考えていきたい。

　　・老老介護が多いので、ケースによっては、複数ケアマネを検討してもよいのかも。

　　・今後支援していくケースで、どのような支援がよいか検討していきたい。検討の時今回の研修をいかしていきたい。

　　・世帯として捉えてチーム支援を心がけたい。

　　・周囲に頼り頼られ、ひとつの世帯を支えていきたい。

　　・多重に課題がある世帯への支援に対する負担感が減らせそうです。

　　・今までは、１名で夫婦を担当していたが、ケースによっては２名のCMで担当するなど検討していきたいです。

　　・複数の視点でケースをみるという大切さ、ケアマネ、他職種が集まって意見を言い合える場をなるべく作っていきたいです。

　　・メリット、デメリットがある中で、どのように協力・連携していくかのヒントをいただけたので、活かそうと思います。

－３－

　　・今回のような機会があると、グループの方の人となりがわかるので、今度相談してみよう。この人にお願いしたい、連携したいと思えた。

　　・ご夫婦の支援時や病棟ＭＳＷとの連携をもっと密に行っていこうと思いました。

　　・個々だけでなく、世帯、別居家族との関わり（協力）を強く出来ればと思う。

　　・1人の目で見るだけでなく、多くの目で関わる事を進められそう。手間は、成果、達成に向けての力（パワー）を。

　　・1人、２人対応でも利用者のニーズをきちんと聞くことが大切で今後に生かせる。

　　・今後必要に応じて、２名CM体制での支援を取り組んでみたい。

　　・メインとサブのケアマネで、担当して対応して行くと言うことも提案（事業所）したいと思いますが、日々の業務上、活かせないような気はします。

　　・ひとりで困った時の相談しやすい（管理者に）

　　・一方的な視点にならないよう、利用者の意向の確認を常に意識して支援していきたい。

　　・多事業所が関わるメリット、デメリットがあるので、どういった形がいいのか、相談しながら進めたい。

　　・1人でかかえないように他職種と関わっていくこと。

　　・ご夫婦をCM１人で担当しているため、メリット・デメリットを整理して支援をしていく。

　　・夫婦のパワーバランスを考え、それぞれの意向確認のため、今後、別々の担当も検討しても良いのではないかと思ました。

　　・必要時は、２名のCMが一緒に訪問して行く。

　　・同じ世帯で２人のケアマネの支援もあるということを知り、そうなったときには情報共有のやり方は、いっしょにモニタリング訪問をするなど、初めの段階で考えて行く必要があると思いました。

　　・支援で困った時等同じケアマネ、他職種の意見、情報をもらいながら、世帯の支援を活かせるようにして行きたい。

　　・自分1人の視点ではなく、他者からの視点も聞く機会を作り、自分以外の事業所のCMにも、情報を共有し、対応したい。

　　・困難事例の対応時に、２人ケアマネでの進め方に活かせそうです。

　　・デメリットに意向のくいちがい、パワーバランス含め、その内容を想定して連携の方法、結果に、疑問点が残らないようにしていきたい。

　　・視点を変える事の重要性。

　　・今までと変わらない。参考になる事はなかった。

　　・相談援助者同士の連携事例は心の支えになります。

　　・夫婦を1人で担当していたので、機会があれば２人で担当してみたい。

●**すぐに実践できると感じたことは何ですか？**

　【自由記載】

　　・まずは、在宅を始めること

　　・ケアマネジャーからの情報をもとに現場で専門的に何ができるか必要かを考え現場内での情報共有、連携を図ること。

　　・関係職種の方との連携を深めていく、協力を支援に生かす。

　　・インフォーマル、地域の一員としての声かけ。

　　・メディカルケアステーションの様な、連携ツールを考えると…ケアマネさんとのＬＩＮＥ交換がてっとり

－４－

早いかと。

　　・ケアマネの視点を大事にする。

　　・アセスメントに本人のみならず、世帯単位という視点も持ち合わせて行いたい。

　　・連携する相手の立場や仕事内容などを把握、その上での相談対応をしていく。

　　・担当している利用者様の視点で、改めて関わり方を見直してみたい。

　　・色々なCMと関係づくりをしたい。

　　・事業所内でのコミュニケーション方向性の協議の機会を多くとる。

　　・連携方法。

　　・同事業所内で夫婦それぞれ別ケアマネが担当すると、他事業所のケアマネと担当するより、情報共有が楽にできると感じた。

　　・1人でかかえこまず、他職種と連携していきたい。

　　・1人CMと２人で関わるのと、どちらが良いか検討ができる。

　　・同職場内で情報共有すること。

　　・世帯を支える為には、事業所や本人、家族と連携が大切だと思います。

　　・担当者会議の開催（ケアプランの期限に関係なく必要性を感じたら呼びかけしていきたいです。）

　　・顔つなぎ、相手を知る。

　　・本人だけでなく、世帯としてとらえる。

　　・情報共有の場面を多く持つようにしたい。

　　・1人で抱え込まず、関わっている人たちに発信していく。

　　・自分の関わりだけでなく、関係者へ声をかけていく。

　　・困難なケースなどでは、自身の事業所のCMと支援にあたるなど。

　　・薬剤師さんとの連携、これは今後どんどん必要です。

　　・利用者の情報を共有し、意見をもらう事も、利用者にとって良い提案ができると感じた。

　　・周囲への相談。

　　・フィードバックする（連携強化）

　　・遠くにいる家族に、ケアプラン、本人の感想など記入し、郵送すること。来苫したときに会議を開催する事。

　　・顔を見える信頼関係を築く。

　　・今、現在、2人を担当で、持っている利用者について、同事業所のCMにも、情報を共有してもらい、不在時でも、対応できるように、お願いしたい。

　　・２人で担当するメリット・デメリットを理解した上で、２人での担当、1人での担当を状況をみて、判断できるようにしていきたい。

　　・これからも、病院のワーカーと連絡をとっていきたいと思いました。

　　・地域において、様々な専門職の方や事業所の持つ機能などもっともっと深く知り、関係を作り、利用者に対しより良い援助を行っていきたい。

　　・多様なリスクをかかえる高齢者は多くいると思います。その準備について事前に考えていく。

　　・利用者を混乱させないアプローチを心がけます。（グループワークでの意見をもとに）

　　・連携を取りながら対応していく。

－５－

●**あなたにとって、これからの課題は明確になりましたか？**

【自由記載】

　　・１人の利用者に対しどのようにすることが世帯を支えることにつながるかチームとして考え連携、情報共有を大切にしていく。

　　・まだまだ経験も少なく知識も少ないので勉強していきたい。

　　・インフォーマル、地域の一員としての声かけ。

　　・カンファレンスに何とかして参加。

・連携ツール。

・薬剤師の知名度ＵＰ。

・顔の見える関係の拡大、具体化。

・今回の研修からはまだ明確になっていません。２名

・連携する時間を作って行きたい。

・利用者、家族を中心にしたチーム作りとそのアプローチ方法。

・課題抽出のアクセスアプローチをまた勉強して支援にあたりたい。

・1人のCMの負担が大きい時があり、２名で支援ができる体制なども検討していこうと思いました。

　　・信頼関係構築、連携の難しさをどう考えていくか、導くか。

　　・普段からの人とのつながりは必要であると感じました。今回のような合同研修会等に積極的に参加しようと思いました。

　　・連携をおこたらない、おそれない。

　　・1人でかかえない事の自覚。

　　・ますます困難性のあるケースが多くなってる事が明確になった。

　　・他職種連携、社会資源の活用。

　　・今後、ひとりで夫婦を担当していって良いか考える機会がもてた。

　　・明確になったとはいえないが、チーム力をupすることが課題。

　　・明確にもなり、自分だけではなく共有もできた。

　　・ちゅうちょせず、相談し、助けてもらう。

　　・困難事例を、ケア会議にかけて、良い支援へと導きたい。

　　・利用者だけでなく、世帯として、支えていけるよう考え、対応したい。

　　・世帯でとらえることの必要性がわかりました。

　　・連携する意義・目的について、あらためて実感できました。

　　・グループワークでの話をきき、参考になりました。

　　・1人で悩まないで相談して行く。

●**あなたが今後、スキルアップの為に学びを深めたいことは何ですか？**

【自由記載】

　　・在宅の現実

　　・支援拒否のケースなど

　　・面接や相談援助技術の向上

　　・権利擁護～ＬＧＢＴ、成年後見制度等。

　　・他職種が薬剤師にもとめることはなにか。

－６－

　　・CM以外のサービス事業所の仕事をしていての不安などを、直接聞いてみたい。

　　・成年後見制度について。

　　・利用者、家族を中心にしたチーム作りとそのアプローチ方法。

　　・身寄りのない方について、医療と福祉の連携。

　　・看とりの時の他職種連携。

　　・接遇。

　　・初期の介入について。（サービス等とつながっていない人、世帯）

　　・何でも良いです。

　　・「自己の尊重」はどこまで認められるのか？（ケアマネとして）

　　・連携。

　　・精神疾患や知的障害を持つ高齢者へのアプローチについて。

　　・病院、医療職との連携。

　　・ICFの活用のやり方、障害との連携。

　　・訪問している中で困った事の情報交換やどうして良いかアドバイス。

　　・医療との連携の仕方、どこまでだれが担当するのか。

　　・違う業種の方と顔がみえる機会を増やし情報を教えて頂きたいです。

　　・身元引受人がないと施設入所できない所を入所できるようにしていく仕組み等、情報提供を知りたい。

　　・アプローチの仕方。それぞれの職種から、どの様な情報をもらったりCMからどのようにしてもらったら、仕事しやすい、やりやすい。など情報交換していきたいと思います。

　　・スーパービジョンについて。

　　・視点のおき方に若干悩んでいるので、多方向からのアプローチについて学びたいです。

**●今後の研修をよりよいものにしていくために、意見等があれば挙げてください。**

【自由記載】

　・研修会へのＤｒ．の参加。

　・他職種の意見交換ができるＧ討議を随所に設けていただきたい。

　・グループワークは４人（多くて５人）がベストかと思います。

　・研修参加者がCMに偏っているため、たくさんの事業所が参加しやすい内容の方が良いのでは。

　・退院支援とグループワークのつながりがあまりよくわからなかった。

　・グループワークを今後も取り入れてほしいです。

　・薬剤師さんやサービスに直接関わる方々など日頃聞くことができないような話や意見をうかがいたいです。

　・今回のように何か結論を導くようなものでなく、意見交換中心の内容はとても有意義であるのでまた開催してほしいです。

　・同じ事業所内でも、利用者の共有（相談とか名前も）わからない。例えば、同じ事業所内でも個人情報としてそういうものなのか？TELがあって○○さんの事でと言われても全くわからない。

　・ディスカッション方式の発表。

－７－